

## 第1次総合計画～第4次総合計画 将来像のまとめ①

	第1次総合計画	第2次総合計画	第3次総合計画
計画期間	S48～S58	S59～H7	H8～H19
時代の潮流			<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子・高齢化社会の到来(急激な高齢化の進展、子どもの数の減少など)</li> <li>・国際化の進展(姉妹都市ロングメント市との交流、市内在住外国人の増加など)</li> <li>・高度情報化の進展(インターネットの利用、情報通信技術の進展など)</li> <li>・環境問題への関心の高まり(地球温暖化、リサイクル社会の構築など)</li> <li>・防災体制の充実(H7.1.17阪神淡路大震災)</li> <li>・個人、社会の成熟化の進展(精神的豊かさの重視、価値観の多様化、女性の社会進出など)</li> <li>・地域間の連携や交流の進展(県や市町村の枠を超えた地域間交流や連携)</li> </ul>
将来像	なし (「第2章 計画の性格」に、「市民の生活向上とその繁栄を図るとともに、文化的な環境を創ることを最終目標とする」との記述あり。)	緑に囲まれた安全・快適なまち－茅野市	八ヶ岳の自然と共生し、躍動する交流拠点都市
将来像の持つ意味など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和33年の市制施行以来、自然環境に恵まれた田園観光都市として進展してきた。</li> <li>・合併により膨大な面積となり、市街部と広大な農村部の並存に苦慮している。</li> <li>・「緑にかこまれた市」の名にふさわしい自然環境の中にあるという利点を生かし、楽しく生活ができるように環境を整え、生活上の需要を充足させるような都市集積の形成、公共施設の整備に努める必要がある。(交通網の整備、住宅用地・工業用地の適正配置、農業生産基盤の整備、市街地再開発・・・など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通・災害・犯罪から市民を守る「安全なまち」</li> <li>・居住環境・人間関係・公害のない健康で暮らせる「快適なまち」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八ヶ岳の自然と縄文文化・生涯学習とひとづくり・観光資源と地域産業・在宅福祉とボランティア・リニア新幹線・広域行政などをキーワードとする</li> <li>・人と人、人と自然、人と物、人と地域が絶えず共生、交流することにより、人も自然も生き生きとした躍動するまち、付加価値の高い風格のあるまちができあがっていく姿を目指す</li> <li>・第3次総合計画は、社会基盤整備の仕上げになるとともに、ハードからソフトへ、ものからこころへの転換となる</li> </ul>
基本理念	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民は、住みよいまちづくりのために、コミュニティ活動をおして行政への積極的な提言をするとともに、事図から実践できる分野については、進んで実行していく</li> <li>・企業は、企業活動をおして住みよいまちづくりに積極的に参画していく</li> <li>・緑と太陽に恵まれている茅野市は、その活用とともに産業を伸ばし、教育文化を育て、福祉を高め、安全快適なまちづくりを進めていく</li> </ul>	茅野市民憲章(S57.7.1 制定)
人口・世帯数	人口:38,116人(参考:S45国勢調査 36,200人) 世帯数:9,995世帯(参考:S45国勢調査 9,392世帯) 【S48.10.1】	人口:46,378人(参考:S55国勢調査 43,942人) 世帯数:13,308世帯(参考:S55国勢調査 12,346世帯) 【S59.10.1】	人口:53,246人(参考:H7国勢調査 52,807人) 世帯数:17,830世帯(参考:H7国勢調査 17,345世帯) 【H8.10.1】

## 第1次総合計画～第4次総合計画 将来像のまとめ②

	第4次総合計画	茅野市地域創生総合戦略
<b>計画期間</b>	H20～H29	H27～H31
<b>時代の潮流</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化・人口減少社会へ(人口減少社会に突入、出生率の低下委による少子化)</li> <li>・グローバル化の進展(規制緩和・撤廃の推進による経済のグローバル化、外国人登録者の増加など)</li> <li>・長引く不況(事業所数や商店数の減少、観光客数の伸び悩みなど)</li> <li>・安全・安心に対する意識の高まり(地震や台風といった自然災害の頻発、凶悪犯罪の増加など)</li> <li>・環境に対する意識の高まり(地球温暖化や砂漠化の進行など、地球規模での環境問題の顕在化など)</li> <li>・価値観の多様化と地域活動の推進(生活水準の向上、自由時間の増加、未入区者の増加など)</li> <li>・公共の担い手の多様化と役割の増大(官から民へ公共の担い手の移行、さらなるパートナーシップのまちづくりの推進など)</li> <li>・情報通信技術等の発達(携帯電話の普及、情報通信技術を活用したまちづくりなど)</li> <li>・地方分権の推進(中央集権型から地方分権型への移行、地域主権の確立)</li> <li>・国・地方を通じた財政の健全化(高齢化に伴う社会保障費の増、選択と集中への転換など)</li> </ul>	
<b>将来像</b>	人も自然も元気で豊か 躍動する高原都市	<p>【基本コンセプト】 5000年の歴史(とき)を未来につなぎ 力強く明日が輝く茅野市をつくる</p>
<b>将来像の持つ意味など</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人が元気で豊か」=ひとの輝き(心身ともに健康で長生き、生きがいや人生の目標を持つ、経済的な豊かさ・・・など)</li> <li>・「自然が元気で豊か」=みどりの輝き(八ヶ岳に抱かれた雄大な自然の恵み、自然を活かした人の営み、自然により育まれる人間性・・・など)</li> <li>・「躍動する高原都市」=まちの輝き(経済発展による豊かで活力ある社会、産業の活性化、生活環境や都市基盤の整備による済みよいまち、安全・安心な暮らし・・・など)</li> <li>・「ひとの輝き」、「みどりの輝き」、「まちの輝き」の実現をめざして、市民力(自助)・地域力(共助)・行政力(公助)の3つの力を高めていく</li> </ul>	縄文時代から受け継がれてきた文化や精神性、自然と共生する生き方などを親から子へ、子から孫へと未来につなぎ、茅野市がいつまでも輝きを放ち続けることを総合戦略で目指す将来像とする。
<b>基本理念</b>	茅野市民憲章(S57.7.1 制定)	<p>【基本目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標1 魅力あるしごとをつくる ～茅野市で働く～</li> <li>・基本目標2 選ばれるまちをつくる ～茅野市に移り住む、茅野市に帰る～</li> <li>・基本目標3 楽しいまちをつくる ～茅野市を訪れる、茅野市で遊ぶ～</li> <li>・基本目標4 若い世代を応援する ～茅野市で産む、茅野市で育てる～</li> <li>・基本目標5 “ひと”と“ひと”をつなぐ安全・安心な地域をつくる ～茅野市で暮らす～</li> </ul>
<b>人口・世帯数</b>	人口:57,201人(参考:H17国勢調査 57,099人) 世帯数:22,122世帯(参考:H17国勢調査 21,529世帯) 【H19.10.1】	<p>【人口ビジョン】</p> H22年国勢調査 56,391人 H52年(2040年) 5万人以上 H72年(2060年) 4万5千人以上